

くまもと経済

C 表紙の人
Cover Story

井星 伸一
熊本信用金庫理事長
“伴走支援”でコンサル力強化鮮明に

2 2021
月号
VOL.476



特集

バス共同経営 熊本市内4方面で“路線最適化”へ
「SDGs」推進で企業価値向上へ
脅威増すサイバー攻撃/増加するキッチンカー

「肥銀ギャップ資金」を
大学研究者4人に寄付、
ビジネス化を後押し

肥後銀行（熊本市中央区練兵町、笠原慶久頭取）は11月24日、昨年3月に創設した県内大学などの研究シーズ事業化に向け研究者に資金を寄付する「肥銀ギャップ資金制度」の第一回寄付を大学の研究者4人に実施した。

肥銀ギャップ資金制度は、県内の大学、高専などを対象に、研究・開発段階の新技术やノウハウの事業化に向け必要となる実証や試作などのための資金需要（ギャップ）

を埋める制度。大学などに眠っている技術を掘り起こし、熊本発の新ビジネス創生につなげ持続可能な地域づくりを後押しする。寄付枠は3年間で5千万円、1研究室当たり500万円以内。

第1回寄付受贈者は、池永和敏・崇城大学工学部教授（マイク口波加熱技術を用いた廃棄GFR PIIガラス繊維強化プラスチックのリサイクル技術開発）、谷時雄・熊本大学大学院先端科学研究部教授（世界初の分裂酵母ジャポニカスKumada iを用いた米焼酎の製造）、中島雄太・熊本大学大学院先端科学研究部准教授（マイクロフィルタを用いた血液診断方式による、手軽に受診できるがん診断デバイスの開発）、米田哲也・熊本大学大学院生命科学部准教授（健康長寿社会実現を目指すMRIを用いた認知症発症間診断技術の実装）。

11月24日、同行本店で研究者4人が出席して贈呈式があり、審査員講評の紹介、4人のプレゼン発表の後、笠原慶久頭取が寄付目録を手渡した。贈呈式はコロナ対策で関係者のみが参加して開いた。